

胸部・循環研究奨励賞 (砂田賞)



市川 啓之

略 歴

2012年 3月	岡山大学医学部医学科 卒業
2012年 4月～2014年 3月	広島市立広島市民病院 初期研修医
2014年 4月～2017年 3月	国立病院機構岩国医療センター 循環器内科
2017年 4月～	岡山大学病院 循環器内科 医員

研究論文内容要旨

非アルコール性脂肪性肝疾患 (nonalcoholic fatty liver disease; NAFLD) は、冠動脈疾患イベントの危険因子である。本研究では、冠動脈CT所見 (有意狭窄・ハイリスクプラーク) とNAFLDの有無を組み合わせることで、将来の冠動脈疾患イベントの予測能が向上するかを検討した。

冠動脈CTを撮像した安定型狭心症患者1148例を対象に、CT撮像後4年の予後追跡調査を行った。NAFLDは冠動脈CT所見とフラミンガムリスクスコアで調整後も、冠動脈疾患イベントの有意な危険因子であった。さらに、フラミンガムリスクスコアと冠動脈CT所見にNAFLD有無の情報を追加すると、予後予測能の改善を認めた。また、NAFLDの多いメタボリックシンドロームや糖尿病患者に限定した解析においても、同様の結果であった。

以上より、安定型狭心症患者においてNAFLDは冠動脈疾患イベントの有意な危険因子であり、冠動脈CTの際にNAFLDの有無を同時評価することは、ハイリスク患者の同定に有用であることが明らかとなった。